

1 高校生の勉強と生活に関する意識調査-日本・米国・中国・韓国の比較-

<キーワード>

学習意識、学校生活、将来への展望

国立青少年教育振興機構は、平成 28 年に日本、米国、中国、韓国の 4 か国の高校生を対象として、勉強と生活に関する意識調査を行った。調査は、質問紙を用いて学校で生徒に記入してもらう方法で、平成 28 年 9 月～11 月に、4 か国が同時に実施した。有効回答者数は、日本 2,015 名（15 地域）、米国 1,540 名（15 地域）、中国 2,499 名（6 地域）、韓国 1,800 名（14 地域）となっている。

◎ 調査結果からみた日本の高校生の特徴

1. 「一夜漬け」の勉強法

勉強の仕方では、日本の高校生が最も多いのは、「試験の前にまとめて勉強する」で、12 項目の中で群を抜いている。一方、「自分で整理しながら勉強する」「できるだけ自分で考えようとする」「教えられたとおりに勉強する」「参考書をたくさん読む」「勉強したものを実際に応用してみる」「教わったことをほかの方法でもやってみる」が米中韓に比べて低い（図 1）。

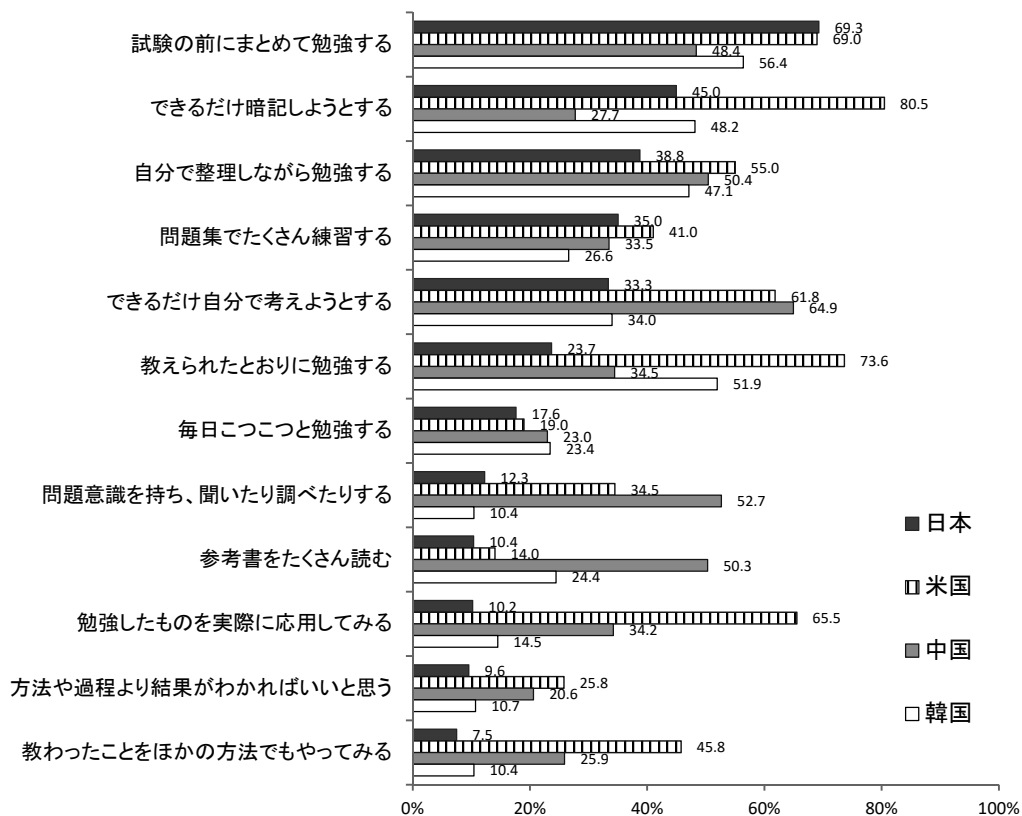


図 1 勉強の仕方

2. 受け身的な授業が中心

日本の高校生は、「教科書に従って、その内容を覚える授業」が多いと感じている反面、いろいろな教材や教具を活用する授業、生徒個人やグループで調べる授業などが少ないと感じている（図2、図3）。

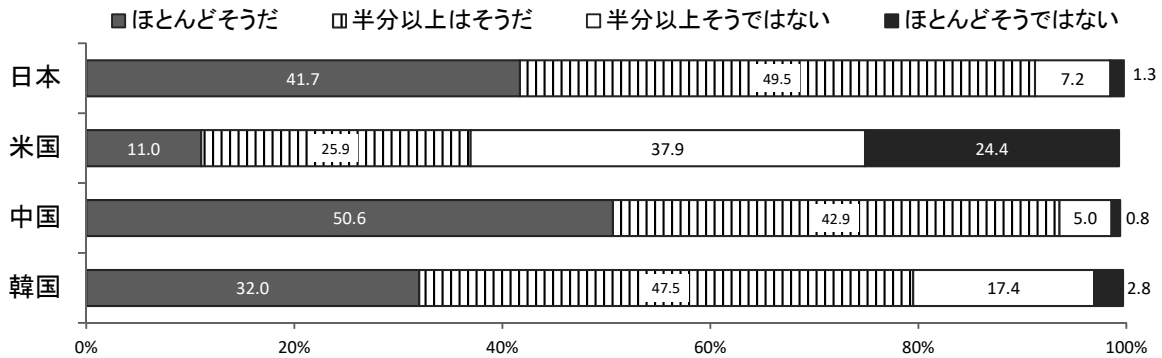


図2 教科書に従って、その内容を覚える授業

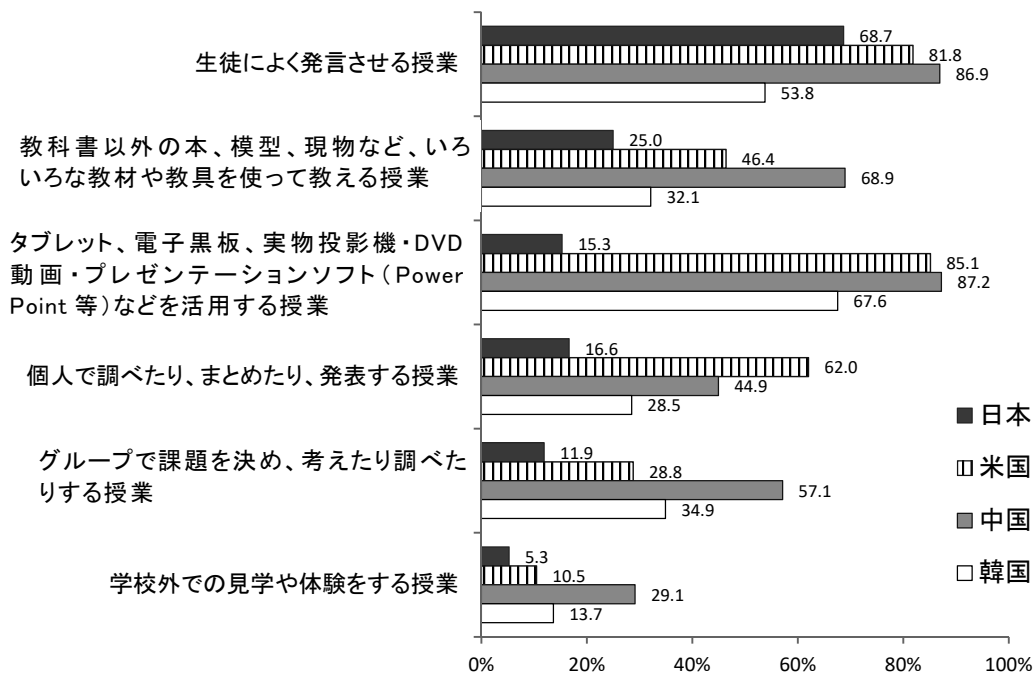


図3 授業の進め方（「ほとんどそうだ」「半分以上はそうだ」と回答した者の割合）

3. 勉強の態度が消極的である

日本の高校生は、授業中、「きちんとノートをとる」が多く、発言やグループワークへの参加に消極的である。また、「居眠り」がほかの3か国に比べて多い。ふだん、「予習、復習をする」も米中韓に比べて少ない（図4）。

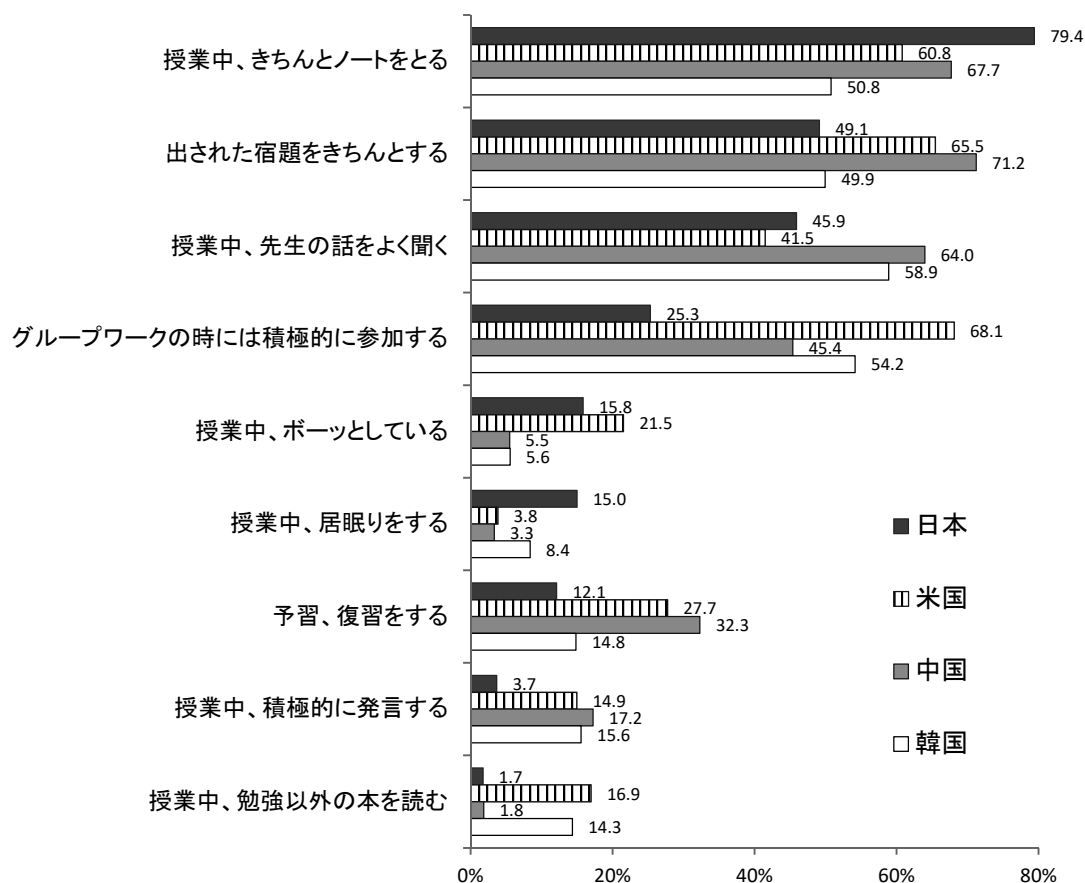


図4 ふだんの勉強で、上記のようなことがどのくらいあるか(「よくある」と答えた割合)

4. ICT（情報通信技術）の活用が少ない

日本の高校生は米中韓に比べて、パソコンの利用、プログラミング、インターネットを利用して勉強することなど情報通信技術の活用が少ない（図5、図6）。

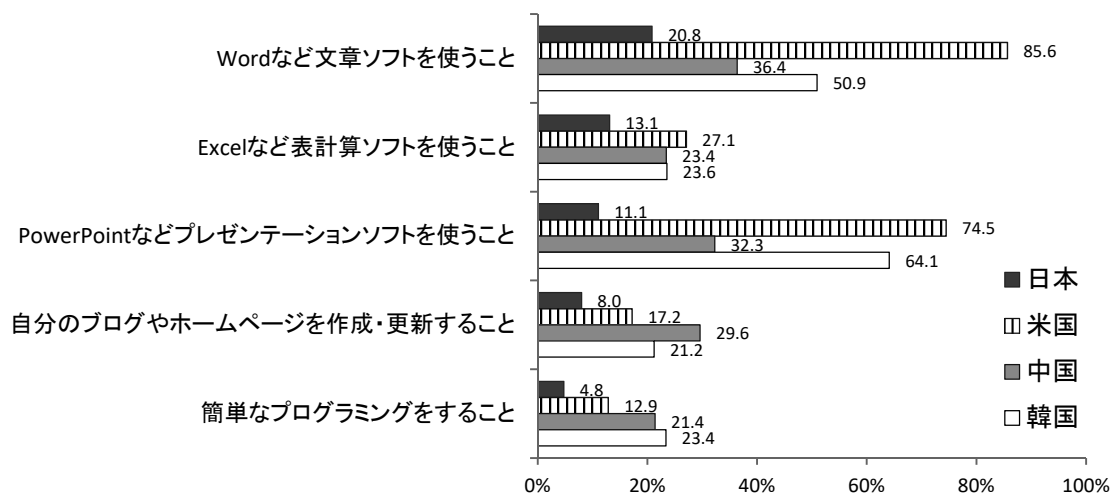


図5 ICTの活用（「よくする」「時々する」と回答した者の割合）

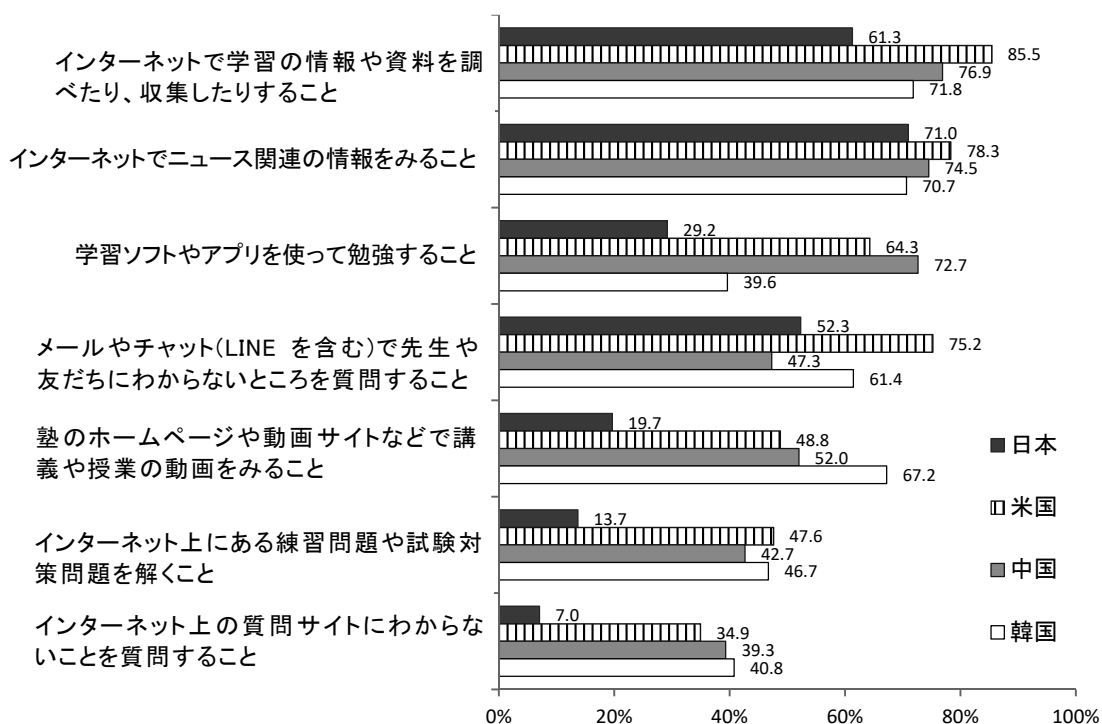


図6 インターネットの活用（「よくする」「時々する」と回答した者の割合）

5. 体験学習が少ない

日本の高校生は、自然の中での体験活動、ボランティア活動、勤労・職業体験活動、科学の実験や見学といった学習活動が米中韓に比べて少ない。また、これらの活動が好きだと回答した者も少ない（図7、図8）。

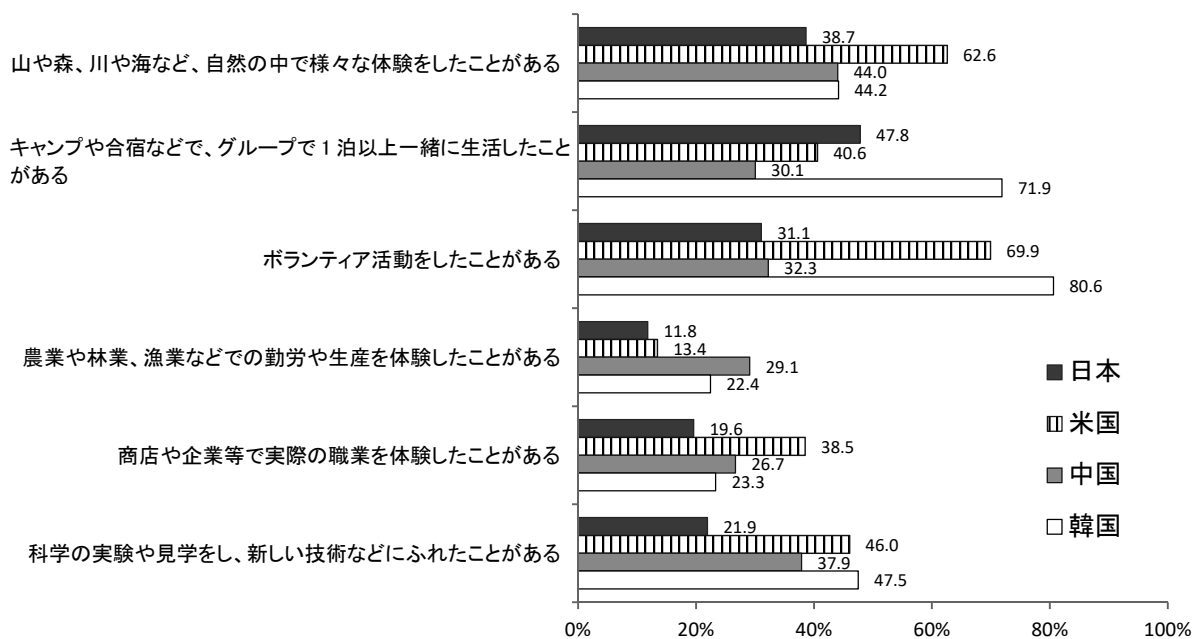


図7 この1年間でしたことがあること

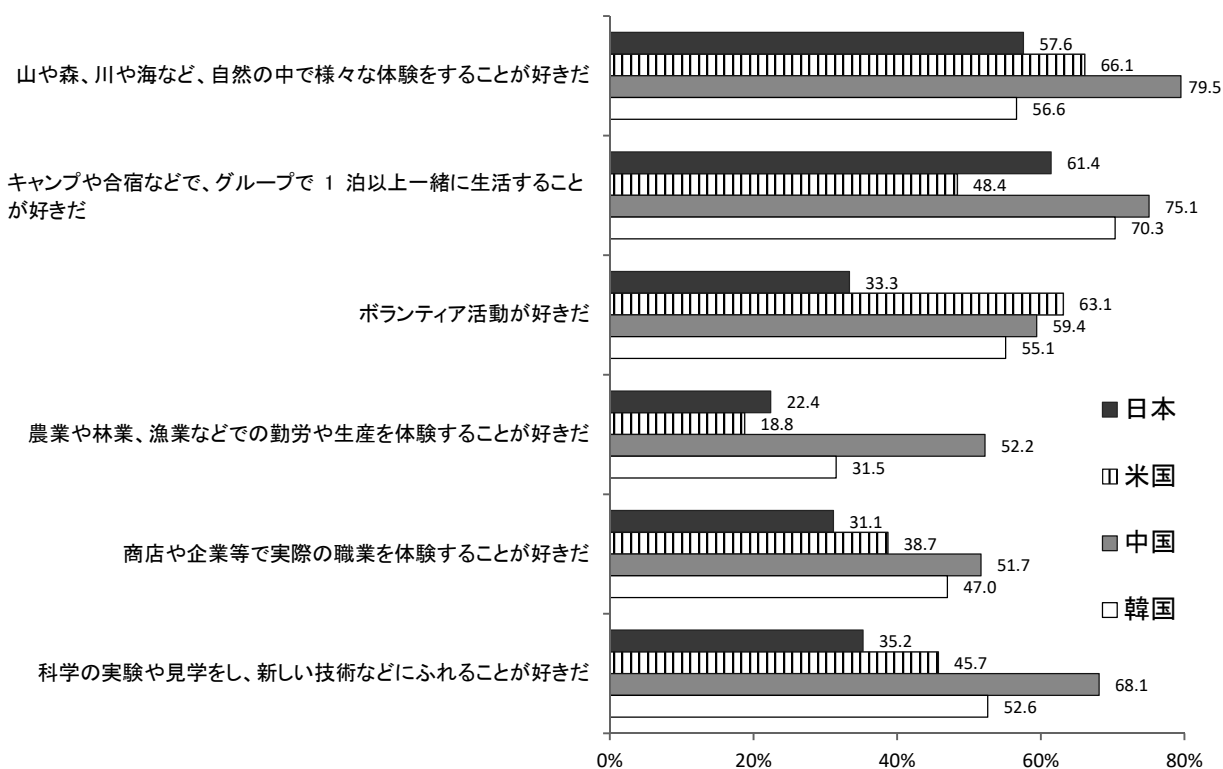


図8 その活動が好きだ

6. 学校生活が「楽しい」

日本の高校生の約8割は「学校が楽しい」と回答し、その割合は4か国中最も高い。また、「勉強についてプレッシャーを感じている」と回答した者の割合（「とても感じる」「まあ感じる」）が米中に比べて低い（図9、図10）。

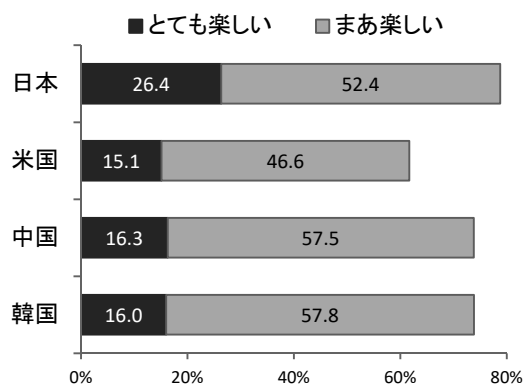
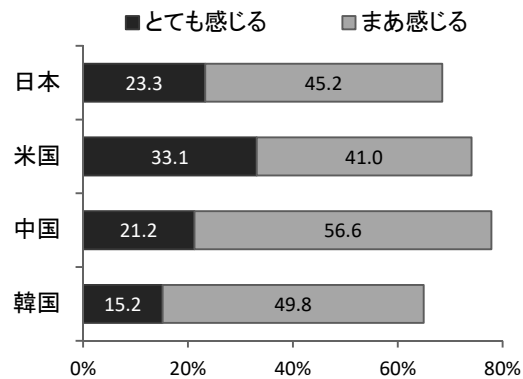


図9 今の学校生活が楽しいか

図10 勉強について
プレッシャーを感じているか

7. 控えめな人生目標

将来、受けたい教育の水準では、日本の高校生の6割強は「四年制大学まで」と回答し、4か国の中で最も多い。米中の高校生の4割強は「大学院まで」（「修士」＋「博士」）と希望している（図11）。

また、日本の高校生は、「高い社会的地位に就くこと」「リーダーになること」「有名な大学に入ること」といった将来に対する願望が低い（図12）。

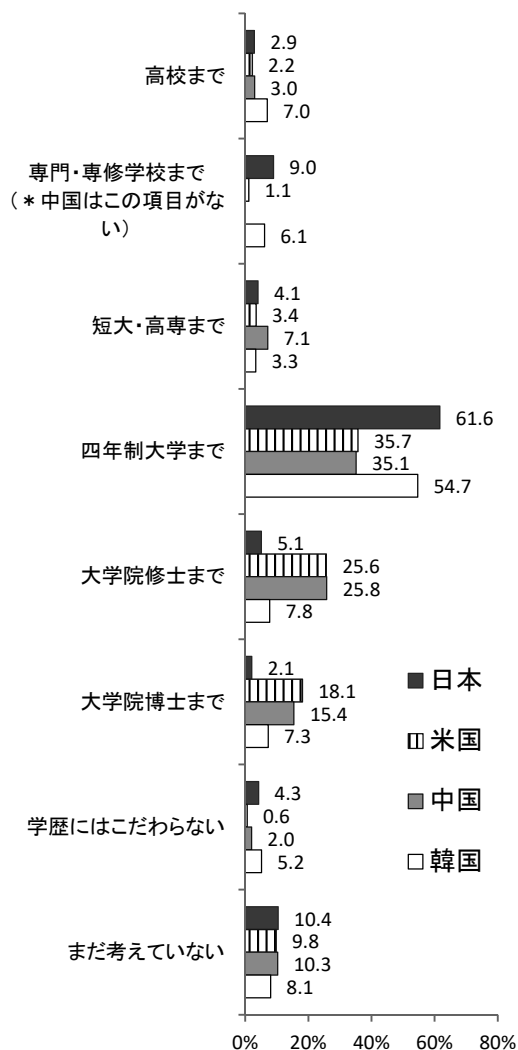


図11 将来、どの程度の教育を受けたいと思うか

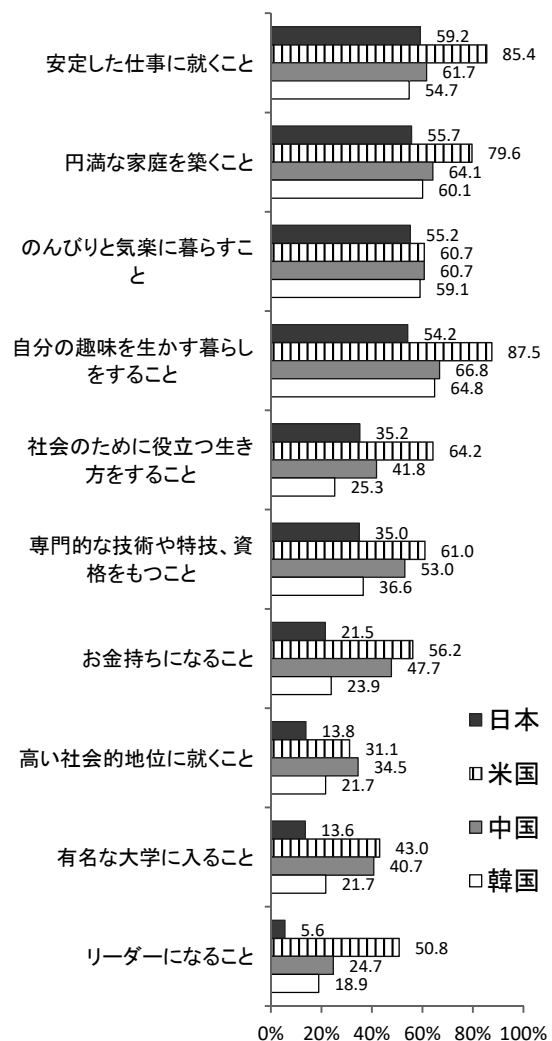


図12 将来、どのような目標をもっているか（「とてもそう思う」と答えた割合）

（文責 青少年教育研究センター長 明石 要一
同客員研究員 胡 霞）